

平成11年度 感染症発生動向調査事業関連のウイルス検査結果

微生物課 ウイルス担当

当所では平成4年から福岡県結核・感染症サーベイランス（感染症発生動向調査）事業を実施している。当事業は平成11年4月から感染症新法（略記）の中に位置づけられ、現在9病原体定点を対象に行っている。

11年度当所に搬入された検体は、感染症発生動向調査事業9定点の383検体（患者366名）、および特別に依頼のあった病原体定点以外の16検体（13名）の計399検体（379名）であった。検体数は昨年度に引き続き増加傾向にある。

ウイルスの分離同定は細胞培養（RD-18S・BGM・Vero・HEp-2・MDCK 細胞）、電子顕微鏡観察（EM）等で行った。

その結果、151株のウイルスが分離（分離率は37.8%）された。

搬入された検体を臨床診断名別に見ると、インフルエンザ様疾患が検体数の53.4%を占め、昨年度同様に最も多かった。無菌性髄膜炎は平成9、10年度に急増した疾患だったが、本年度は大きな流行が見られず、検体数は昨年度に比べ激減した。その他上気道炎等を示す疾患が増加したことが注目される。

ウイルスが分離された検体別内訳は、咽頭うがい液77株・咽頭ぬぐい液56株・ふん便13株・髄液4株・結膜ぬぐい液3株・水疱ぬぐい液1株であった（表1）。

表1 平成11年度ウイルス検査結果

臨床診断名※	患者数	検体数	陽性数	検体	分離ウイルス（分離株数）
感染性胃腸炎	8	11	2	ふん便	ロタ(2)
手足口病	17	20	3	咽頭ぬぐい液	コクサッキーA16型(1)・コクサッキーB2型(1)
				ふん便	エンテロウイルス71型(1)
ヘルパンギーナ	24	24	12	咽頭うがい液	単純ヘルペス1型(1)
				咽頭ぬぐい液	コクサッキーA5型(1)・コクサッキーA10型(2)・コクサッキーB2型(3)・コクサッキーB5型(2)・アデノ1型(1)・アデノ3型(1)
				ふん便	コクサッキーA6型(1)
インフルエンザ様疾患	211	213	88	咽頭うがい液	インフルエンザAH1型(37)・インフルエンザAH3型(9)・コクサッキーA6型(1)・コクサッキーB2型(1)・コクサッキーB4型(4)・アデノ1型(2)・アデノ3型(1)・アデノ5型(2)・アデノ7型(2)・エコー6型(2)・単純ヘルペス1型(4)
				咽頭ぬぐい液	インフルエンザAH1型(13)・インフルエンザAH3型(7)・コクサッキーB3型(1)・エコー9型(1)・単純ヘルペス1型(1)
無菌性髄膜炎	14	22	9	咽頭ぬぐい液	コクサッキーB4型(1)
				髄液	コクサッキーB4型(1)・コクサッキーB5型(2)・エコー6型(1)
				ふん便	コクサッキーB4型(2)・コクサッキーB5型(1)・A群ロタ(1)
脳炎・脳症	10	14	5	咽頭ぬぐい液	インフルエンザAH3型(1)・コクサッキーB4型(1)
				ふん便	コクサッキーB4型(2)
				髄液	コクサッキーB4型(1)
流行性角結膜炎	4	4	3	結膜ぬぐい液	コクサッキーB5型(1)・アデノ19型(2)
夏かぜ症候群	11	13	5	咽頭うがい液	コクサッキーA6型(3)・コクサッキーB2型(1)・アデノ2型(1)
乳児嘔吐下痢症	6	7	2	ふん便	A群ロタ(1)・ポリオ1型(1)
咽頭結膜熱	3	3	2	咽頭うがい液	アデノ7型(1)
				咽頭ぬぐい液	コクサッキーB2型(1)
ポリオ様疾患	1	2	1	ふん便	コクサッキーA2型(1)
その他	78	78	27	ふん便	エコー6型(1)・エコー9型(1)
				咽頭うがい液	インフルエンザAH1型(1)・インフルエンザB型(1)・コクサッキーB4型(1)・エコー6型(1)・エコー17型(1)
				咽頭ぬぐい液	コクサッキーA5型(1)・コクサッキーB4型(1)・コクサッキーB5型(4)・アデノ1型(2)・アデノ7型(6)・エコー6型(2)・エコー9型(1)・エコー17型(1)・単純ヘルペス1型(1)
				水疱ぬぐい液	単純ヘルペス1型(1)

※臨床診断名は重複あり

